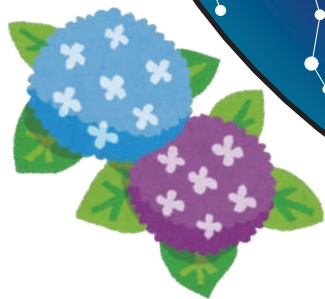
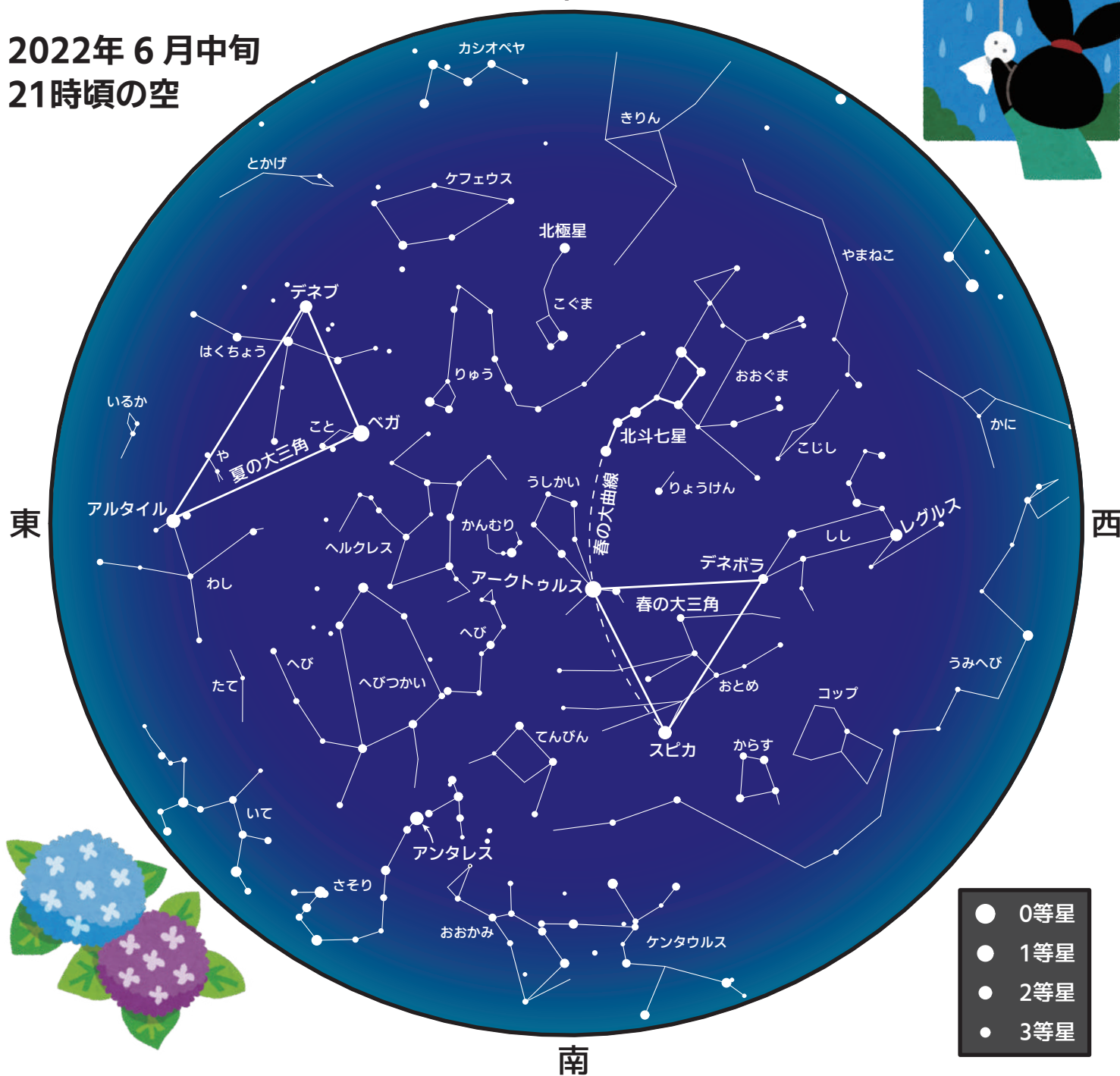


# 阿南市科学センター 6月の星空案内

北

2022年6月中旬  
21時頃の空

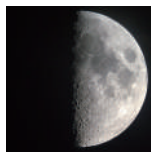


6月というとジューンブライドの言い伝えがありますが、この季節夜空には2組の「夫婦星」が見えています。1組は、南の空高くに見える春の大三角にあります。うしかい座のアークトゥルス(約0.0等)とおとめ座のスピカ(約1.0等)で春の夫婦星と呼んでいます。実際の空で眺めてみると、アークトゥルスはオレンジ色に、スピカは白っぽく見え、色の対比も楽しめます。もう1組は東の空低く、夏の大三角にある七夕の星です。こと座のベガ(約0.0等)は織姫、わし座のアルタイル(約0.8等)は彦星としても親しまれています。皆さんも春夏それぞれの夫婦星を楽しんでみてはいかがでしょうか。

さて、暦の上でも6月11日に入梅をむかえ、いよいよ梅雨本番のシーズンとなりました。雨ばかりで星が見えない日々が続きますが、梅雨の中休みの空は大気中の汚れが雨で落とされ、とても澄んでいます。晴れた日の夜にはぜひ空を見上げてみてください。

天体観望会のご予約はネットかお電話にて 【毎週土曜日開催 / 19時～, 20時～, 21時～】  
阿南市科学センター 電話 0884-42-1600 <http://ananscience.jp/science/>

## ■ 6月の月の満ち欠けと惑星について



上弦  
7日



満月  
14日



下弦  
21日



新月  
29日

### 6月の天体観望会で月が見える日時は？



6/4(土) 20時・21時の回がお勧め



6/11(土) 20時・21時の回がお勧め

水星：中旬より、夜明け前東のごく低空に見える。【約0.3等】

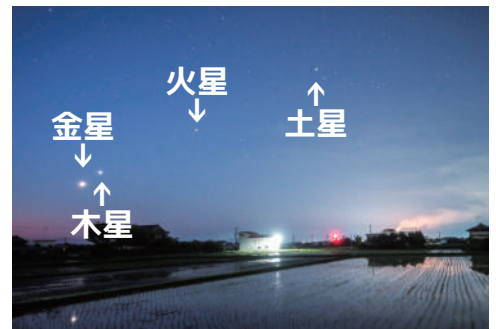
金星：夜明け前、東の低空に見える。【約-3.9等】

火星：未明に東の空から昇り、夜明け前まで見える。【約0.6等】

木星：未明に東の空から昇り、夜明け前まで見える。【約-2.3等】

土星：未明に東の空から昇り、夜明け前まで見える。【約0.7等】

※惑星の等級は中旬頃の明るさ。水星のみ下旬の明るさ。



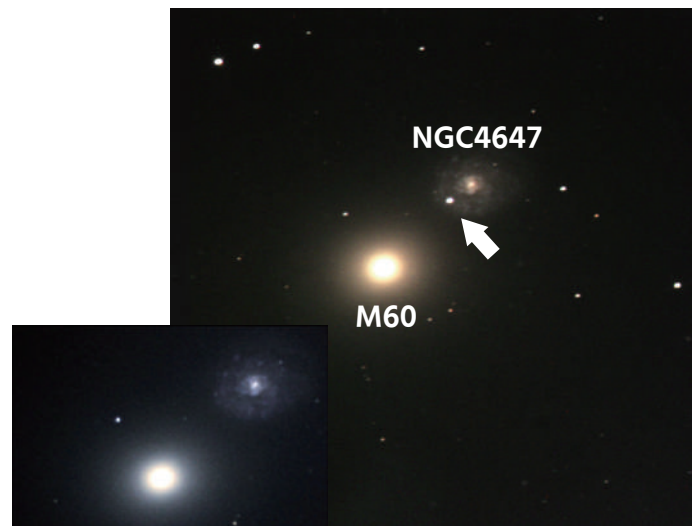
5月4日撮影 夜明け前の惑星たち (A.Suzuki)

## ■ 話題の天文ニュース

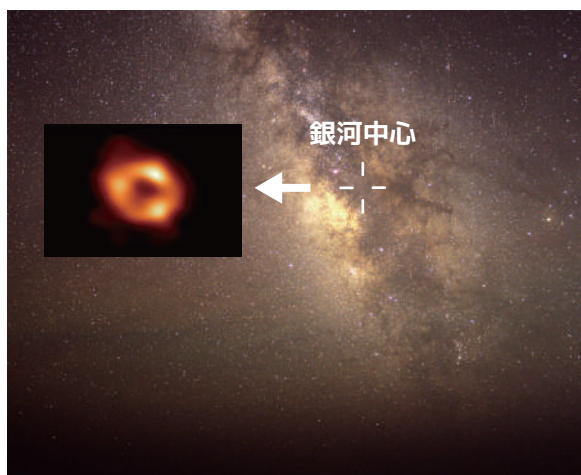
### ★渦巻銀河 NGC4647 にて超新星発見

今年4月16日頃、山形県の板垣公一さんによって渦巻銀河 NGC4647 において超新星が発見されました。写真右上の中央にあるのは楕円銀河 M60 で、その右上にあるのが NGC4647 です。2009年に撮影した写真と比べてみると、過去には写っていない星の存在がわかります。Latest Supernovae に寄せられた観測データによると4月22日撮影時の明るさは約13等でした。

超新星は爆発の仕方が大きく2つに分けられます。1つ目は、質量の大きな星が一生を終えるときの大爆発、そしてもう1つは白色矮星における核爆発だと考えられています。今回の超新星は後者にあたります。このタイプの超新星の面白さは、爆発後1番明るくなった時の明るさがほぼ同じであるところです。この特性をもとに、銀河までの距離を求める研究がなされています。星はまさにその身をもって「ものさし」となり、宇宙の広がりを見せてくれているのです。



右上 4月22日に撮影した NGC4647 (A.Suzuki)  
左下 2009年に撮影した NGC4647 (H.Hori)



左 EHT で撮影した天の川銀河中心のブラックホール画像  
(C) EHT Collaboration  
背景 天の川 (A.Suzuki)

### ★天の川銀河中心のブラックホール撮影

今年5月12日、天の川銀河の中心にある巨大ブラックホールの撮影に初めて成功したとのニュースが国立天文台より発表されました。この画像は2017年に世界8か所の電波望遠鏡で観測されたデータをもとに作られた画像です。画像を見ると、オレンジ色のリング状のものが写っているのがわかります。この正体はブラックホール本体ではなく、ブラックホールのまわりにあるガスなどが放つ光です。これまでの研究から、天の川銀河の中心にブラックホールがあると予測されていましたが、今回の観測でその予測や理論を裏付ける結果が得られました。

科学センターのプラネタリウム夏番組では、天の川を「みること」にフォーカスしたトピックを紹介します。今回撮影されたブラックホールも取り上げますので、ぜひご覧ください。